

Yamakado News Letter



今秋は保全作業の日になると雨降りに…

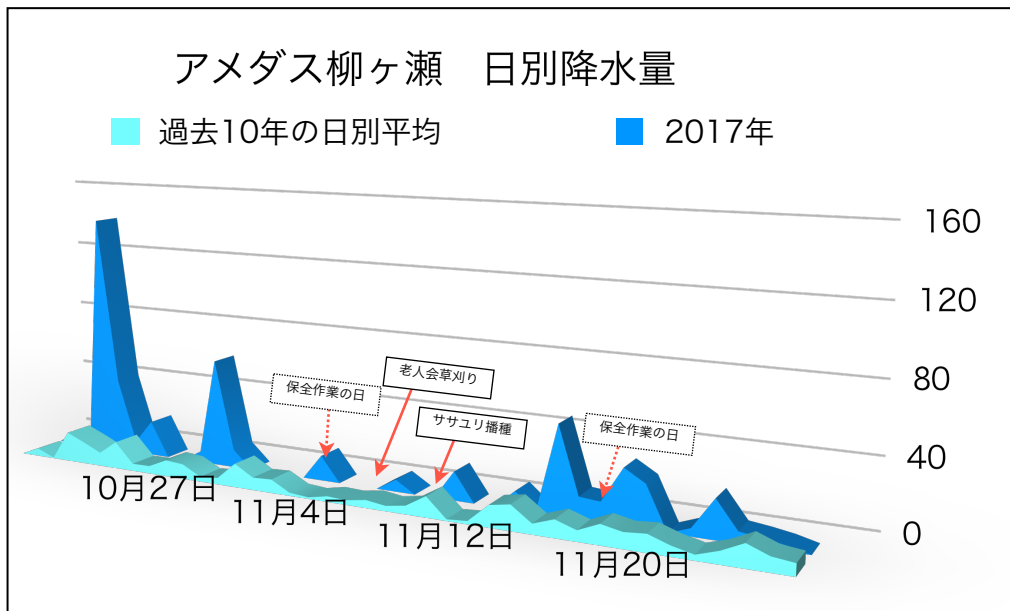
例年秋は保全活動が忙しくなる時期です。その中で特に大事な活動が、外部団体との共同作業です。一つは7日に行われた山門老人会によるコース整備などの草刈り作業、もう一つは10日に行われた西浅井中学校2年生のササユリ播種作業です。今までこの森に関わってこられた地元地域の先人の方々、そしてこの森のこれらに関心を持ってもらいたいと願う地元の中学生らとの大事な共同作業です。

それらの作業はただ決められたその日に行くというだけではなく、事前の準備も色々あります。草刈りの現場で残しておきたい植物には、刈られないように予めテープでマーキング

グをします。中学生は授業の合間の限られた時間に作業に来てくれるので、効率よく作業がでるように予めササユリの蒔果は採取して保存しておきます。また蒔果の回収が済んだ区画の防獣ネットや金網も作業の妨げになるので撤収をします。これらの作業は蒔果が熟した後から作業日当日までの数週間で完了しなければいけない

ので、気分的にも急かされる作業です。この1ヶ月は雨の日が多く作業の遅れが心配されましたが、2つの作業は雨に降られず何とか無事に終わることができました。

しかし、第1第3土曜日の保全作業の日は両日も雨が降り、作業ができませんでした。その分は平日参加可能な会員による作業などで、少しずつ進めていきました。



西浅井中2年生によるササユリ播種作業・花が咲くのは彼らが成人する頃。



山門老人会による保全作業 草刈りの他、防獣テープ巻き、外来種の除去などもやって頂きました。



ネット撤収 Photo Saji



中学生が播ききれなかったササユリ播種



大量の資材を整頓



残したい植物をマーク Photo Saji

その他の活動

この1ヶ月間は前ページに書いた作業の他、県協働事業によるアカガシ林の択伐作業、シカ密度推定のための糞粒調査などを行いました。アカガシの択伐は、大津祭りで100年ごとに行われる曳山大修理に必要な大径木のアカガシを育てることが目的です。株立ちしたアカガシから育てる1本だけを残し、その他を伐ります。山門水源の森のアカガシ林は、ここ50年ほど間伐が行われていません。その結果、樹木が茂り過ぎて樹冠が密閉し、下層に光が当たらなくなっています。そのことで層植生が退化している状況があります。この協働事業による伐採によって下層に光が当たり、下層植生が回復することも目的としています。ただし、こうした広葉樹の育林は先例がなく、手探りで進んでいるのが実情です。

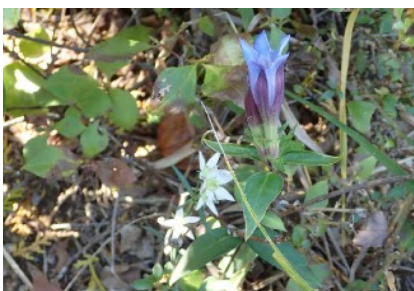
一方で、下層植生を回復する環境づくりをしても、シカ対策を怠れば植生は回復しません。今年度からは会員がシカの有害捕獲の資格を取り、年間を通し



てシカの捕獲を行なっています。それに合わせてシカ密度の推移を把握するための糞粒調査も行なっています。昨シーズンと比べてササ藪が回復した感触はまだありませんが、山野草は開花が多く見られたという印象です。

若干ながら捕獲の効果が出ていると感じられます。

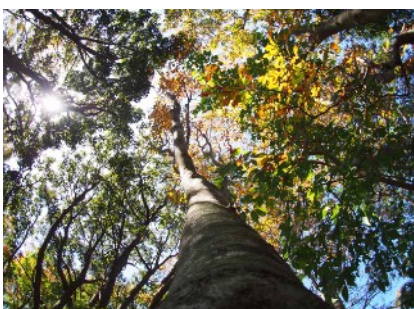
その他、晴れ間を選んで合間合間に、チップに粉碎された間伐ヒノキの袋詰めと養生散布、観察道の補修などを行いました。



今年はい多い印象の lindou、センブリ



今月の森の様子



ツーショット 10/31



炭焼き小屋 11/7



四季の森 11/13